

令和4年度
西都市議会文教厚生委員会
行政調査報告書

日時：令和4年10月17日（月）
～
令和4年10月18日（火）

- 視察先：①大分県玖珠郡玖珠町
中学校再編について
- ②大分県中津市
中学校のブレザー型標準服（制服）導入について
なかつ・こどもいきいきプレイルームについて
- ③大分県豊後大野市
性別などによらず着用できる中学校の制服選択制
導入について

本委員会は、所管事務に関する調査のため、令和4年10月17日から10月18日の間において、大分県玖珠郡玖珠町・大分県中津市・大分県豊後大野市を訪問し、本委員会の所管事務中、教育行政及び福祉行政に関する事項に関し、訪問市等において説明を受け、質疑応答等を行ったので次のとおり報告する。

委員長 荒川 敏満

副委員長 壺岐 秀光

委員 米良 弥

〃 狩野 保夫

〃 岩切 一夫

随 行 事務局 川崎 翔司

【大分県玖珠郡玖珠町】

■日 時 令和4年10月17日（月） 13:58～15:36

■調査目的 中学校再編について

玖珠町は、玖珠町総合教育審議会からの「現在の7校から1校に再編する。」「今後の生徒数の減少予測から早期の再編が望まれる。」との答申を踏まえ、町内7中学校を統合し、平成31年4月からくす星翔中学校として開校している。

本市においては、西都人会議教育文化分科会から「市内中学校の統合の推進について」の提言が提出され、西都市学校再編調査検討委員会からの「西都市立中学校において、1学年1学級の学校規模は、適正規模ではないと判断する。」「上記の学校規模を解消するため、中学校の再編が必要である。」との報告を基に、西都市立中学校再編基本方針を定め、市立中学校の再編推進を決定。銀鏡中学校を除く市内5つの中学校を再編し、令和8年4月に新中学校として開校することを目指している。

今後、本市の中学校再編において参考になるものであり、本委員会として調査を行った。

■調査事項

- (1) 統廃合に至る経緯について
- (2) 保護者・地域への説明会開催の有無と結果について
- (3) 統廃合に伴う校舎等の施設整備及び予算措置について
- (4) スクールバスの運行計画の検討経緯及び実施後見えてきた課題について
- (5) 再編前後における環境変化に対する生徒たちのケアについて
- (6) 再編時、または再編後に中学校に上がる小学生への対応について
- (7) 再編に伴う将来への課題について
- (8) 再編前行われた先進地調査について

■概 要

1. 町の概要

玖珠町は、大分県の西部に位置し、総面積は286.51km²、県全体の4.5%を占めている。九州では第一の河川である筑後川の上流、玖珠川が東西に貫流し、落差が大きい三日月の滝、清水瀑園をはじめ滝や湧水地が随所に見られる。

また、玖珠盆地を取り囲むように、我が国最大の二重メーサー台地の万年山、伐株山、岩扇山、鏡山がそびえている。また、北境に接して耶馬溪、南境には九重連山さらに東方には4,000haに及ぶ日出生台原野が広がり、豊かな山なみの懐に抱かれている印象を受ける。

玖珠町内には、JR久大線（豊後森駅、北山田駅）が通り、主要幹線道路として東西に大分自動車道（玖珠インターチェンジ）、国道210号、南北には国道387号が通り、福岡・北九州・熊本へ90分圏内、大分市には60分圏内に位置する交通の要衝となっている。

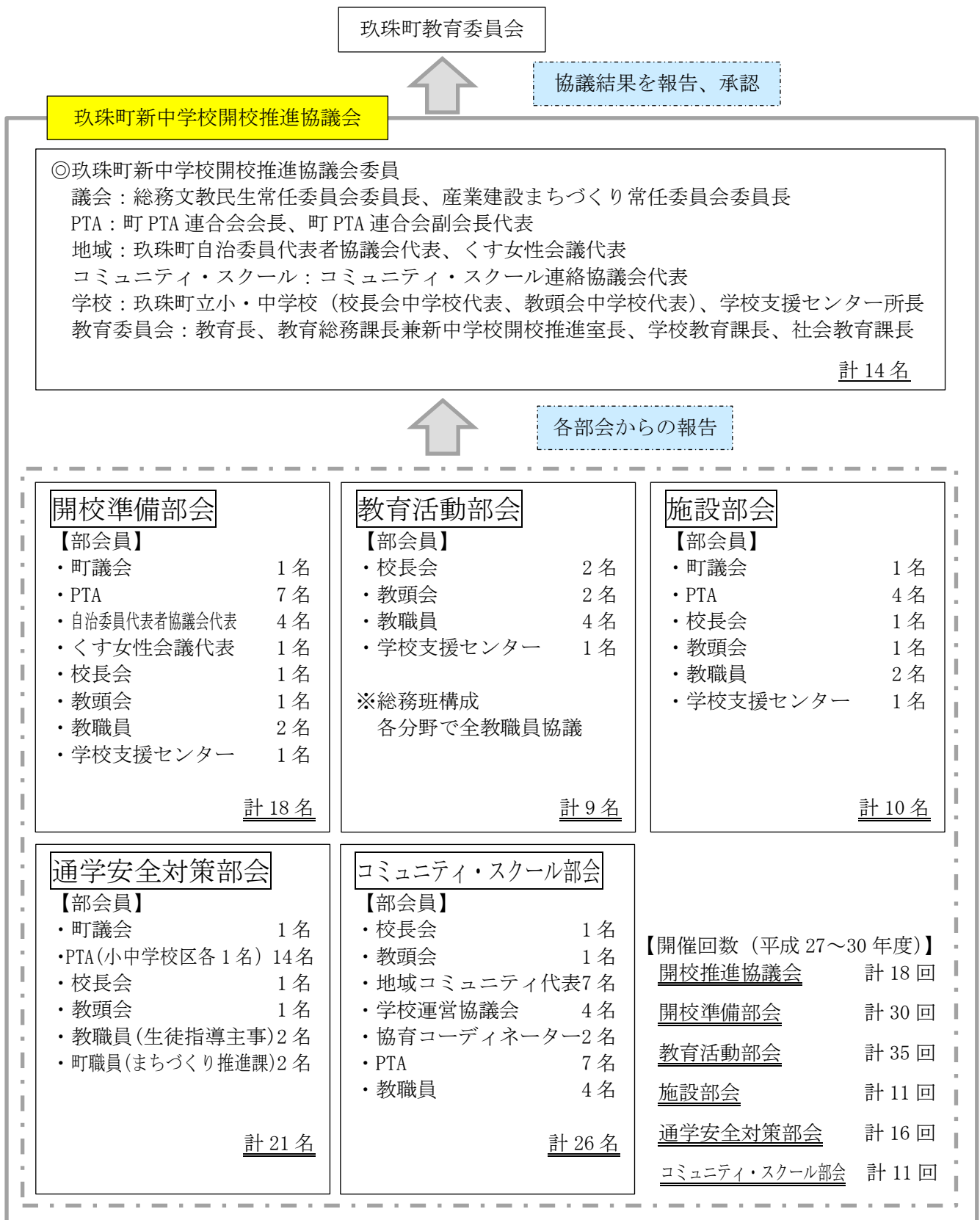
2. 調査内容

(1) 統廃合に至る経緯について

○開校までの主な経過

平成6年 5月	玖珠町学校教育審議会設置
平成8年 3月	玖珠町学校教育審議会答申 ・7中学校を2校に再編する ・生徒数が500人を割るような事態ともなれば1校も
平成9年 6月	教育委員会基本方針決定（議会報告） ・平成15年を目途に、7校を2校に
平成10年 7月～9月	町内説明会
平成12年 3月	教育委員会新方針決定 ・平成20年代前半を目標に、7校を2～1校の再編を基本 ・極小規模校3校の解消（7校を4校に）
平成12年 9月	中学校統合反対連絡協議会が再編反対請願書を議会に提出 常任委員会：不採択、本会議：採択
平成13年 12月	中学校再編方針を凍結
↓	
平成22年 6月	玖珠町議会定例会において中学校の再編事業を再開することを表明
平成23年 1月	玖珠町総合教育審議会へ諮問 「生徒数の減少や社会変化に対応し、教育効果及び教育水準を向上させる中学校の適正規模及び適正配置について」
8月	玖珠町総合教育審議会からの答申 ・現在の7校から1校に再編する ・今後の生徒数の減少予測から早期の再編が望まれる
平成25年 3月	玖珠町議会定例会において中学校再編方針を表明 ・7校を1校に再編し、新設校とする ・校地は森高校跡地が最適である ・必要な施設は新築するなど教育環境を整備することが望ましい
平成27年 2月	玖珠町総合行政審議会に諮問「玖珠町新中学校の校舎整備について」
3月	玖珠町総合行政審議会からの答申 ・現在の森高校校舎2棟を有効に活用した大規模改修が望ましい
6月	玖珠町議会定例会において施設整備方針表明
平成28年 3月	校名「くす星翔中学校」に決定、施設整備「基本設計」完了
平成29年 3月	施設整備「実施設計」完了
8月	くす星翔中学校住民説明会実施（町内6か所）
平成30年 10月	くす星翔中学校住民説明会実施（町内7か所）
平成31年 2月	くす星翔中学校保護者説明会開催
3月	町内各中学校閉校式 くす星翔中学校への試行登校実施（4月に第2回実施）
4月	くす星翔中学校開校式 くす星翔中学校始業式 くす星翔中学校第一回入学式
5月	くす星翔中学校開校記念式典

○開校までの推進体制及び開催回数



(2) 保護者・地域への説明会開催の有無と結果について

説明会の開催状況については、上記「○開校までの主な経過」表のとおりである。

(3) 統廃合に伴う校舎等の施設整備及び予算措置について

○施設整備方針

諮問機関の答申・玖珠町PTAの陳情・森高校同窓会の要望・議会や町民からの意見を踏まえ、町内の中学校や森高校を視察し、今後のまちづくり計画や長期財政計画も総合的に勘案し、「新中学校の校舎は、旧森高校校舎を大規模な改修を実施し活用する」ことに決定した。

また、学力向上をはじめ知・徳・体のバランスのとれた、グローバルに活躍できる子どもたちを育成するために総合的な教育環境の整備を行う。

○施設整備の概要

- ①普通教室棟（北校舎）・管理教室棟（南校舎）は大規模改修
- ②屋内運動場（体育館）・武道館（剣道場）・メディア棟（多目的ホール・図書室）は新築（増築）
- ③バリアフリー促進のため、北校舎・南校舎間の東と西に渡り廊下を新設
- ④水泳プールの更衣室棟は新設、プール本体は既存改修
- ⑤屋外運動場は土壌改良工事及び防球ネット設置

○事業費

【歳出（平成25年度～平成30年度）】 (単位：円)

区 分	事 業 費
施設整備費	3,376,877,287
開校推進事業費（備品・車両・委託）	141,768,777
再編対策費（協議会費等）	28,663,109
合 計	3,547,309,173

【歳入（平成25年度～平成30年度）】 (単位：円)

区 分	歳入金額	歳入年度
学校施設環境改善交付金（文科省）	404,992,000	平成29年度： 173,923,000 平成30年度： 231,069,000
公立学校施設整備費国庫負担金	154,246,000	平成29年度： 15,424,000 平成30年度： 138,822,000
特定防衛施設周辺整備調整交付金	23,922,000	平成30年度： 23,922,000
次世代教育環境整備基金	1,107,676,000	平成28年度： 76,863,000 平成29年度： 215,264,000 平成30年度： 815,549,000
童話の里くす・ふるさと応援基金	5,000,000	平成30年度： 5,000,000
起債	1,846,600,000	平成27年度： 123,900,000 平成28年度： 81,300,000 平成29年度： 365,300,000 平成30年度： 1,276,100,000
一般財源	4,873,173	
合 計	3,547,309,173	

(4) スクールバスの運行計画の検討経緯及び実施後見えてきた課題について

平成28年度より玖珠町新中学校開校推進協議会の通学安全対策部会にて、通学手段やスクールバス路線、停留所等の協議を行ってきている。

通学手段と距離については、自宅から学校までの通学距離に応じて以下のとおり3つの通学区分に分けている。

2km未満	徒歩
2km以上4km未満	自転車
4km以上	スクールバス・タクシー

2km以上4km未満については、自宅から学校までの実測距離で判断をしている。

また、4km以上については、自治区単位で指定している。タクシーについては、現在使用していない。

○スクールバス路線

No.	路線名	車種	備考
1	日出生北部線	ワゴン (14人乗)	
2	日出生南部・相の迫線	ワゴン (14人乗)	
3	鹿倉・小野線	ワゴン (14人乗)	
4	小田・金粟院線	ワゴン (14人乗)	
5	山浦線	ワゴン (14人乗)	
6	大原野・麻生釣線	—	※該当者なし
7	北山田西部代太郎線	ワゴン (14人乗)	
8	北山田東部中央線	マイクロバス (29人乗)	
9	北山田北部朝見線	ワゴン (14人乗)	
10	北山田北部大野原線	ワゴン (14人乗)	
11	北山田西部矢野線	ワゴン (14人乗)	
12	山下・中塚線	マイクロバス (29人乗)	
13	古後線	ワゴン (14人乗)	

※No.6「大原野・麻生釣線」については、住民基本台帳上子どもがいない。路線としては設定しているが、運行の予定はない。

スクールバスの路線については13路線設定しているが、開校時から実質12路線で、朝1便と帰り2便（1便は部活生対応）を運行している。

運行車種については隣の九重町が平成25年に町内中学校を1校に再編しており、運行しているスクールバスのいろんな課題等を参考にしながら検討を行い、上記のとおりとなっている。車両については玖珠町が購入し、保管場所も含めて運転業務を玖珠郡の業者3社に委託している。

○運用後の課題について

- ・運用に対して専任の人員配置（帰りの2便にどの生徒が乗るのか、土日の部活動に出てくる生徒が何人いるのかなどの調整が大変）
→会計年度任用職員を配置し、調整している。
- ・業者と学校と行政の3社での連絡手段の模索（急な運行の変更などの連絡）
→勘違い等を防ぐため、無料通信アプリLINEと電話両方での連絡を取っている。
- ・荒天時の判断（山間部のみ雪が積もっているなど、盆地と山間部で気候が違う。運行判

断が難しい)

→全部休校の判断をなるべく避けている。最近はGIGAスクール端末持ち帰りができる
おり、そういった心配が少なくなっている。

- ・生徒増減に対しての今後の路線維持の判断（5年間契約期間途中での変更等）

（５）再編前後における環境変化に対する生徒たちのケアについて

生徒の新制服・体操服については、新中学校開校時の対象生徒（町内中学校の1、2年生）
に事前に導入し、着用させる対応をした（閉校時は2種類の制服になった）。

合同授業、合同合宿、合同修学旅行等を実施し、他中学校生徒との交流を実施している。

（６）再編時、または再編後に中学校に上がる小学生への対応について

小学生についても、中学生と同じく合同授業を複数実施。また遠隔オンライン授業も行っ
ている。

（７）再編に伴う将来への課題について

- ・再編によりできた町内7中学校の校舎の活用方法について
→玖珠町では、普通財産の管理は総務課管財班が担当することとなっている。

○活用方法決定箇所

旧森中学校校舎	民間活用
旧八幡中学校校舎 (校舎が比較的新しい)	隣接する小学校が移転し利用
旧北山田中学校グラウンド	民間活用

（８）再編前行われた先進地調査について

○玖珠町が行った先進地視察先一覧

大分県国東市	再編方法、スクールバス、施設改修（高校→中学校）
大分県大分市	碩田中学校（新築校舎） 大分高校（体育館施設LED）
大分県玖珠郡九重町	再編方法、施設、スクールバス
熊本県南関町	建築工法：スケルトン改修

■まとめ

玖珠町は、町内7中学校を統合し、平成31年4月からくす星翔中学校として開校して
いる。施設については、県立高校再編に伴う旧森高校校舎を大規模改修により活用してい
た。本市では現妻中学校校舎の活用を計画しているが、残り4つの中学校校舎等の活用
についても検討が必要である。玖珠町でも再編によりできた町内7中学校の空き校舎等
の活用方法について課題を持っており、現時点から並行して協議・検討していくべき
だと感じたところである。

通学方法については、4km以上でスクールバスとし、車両については玖珠町が購入し、
保管場所も含めて運転業務を玖珠郡の業者3社に委託。部活動にも配慮をした運行計
画であった。本市での遠距離通学については、コミュニティバスの活用やスクールバス
の導入の検討を行っている段階であり、今後、西都市新中学校設立推進委員会で協
議・検討していくことになるが、地域や通学生徒の実態に合わせた対応をすることが
重要であり、部活

動生や当日乗り降り人数の把握・調整などの細かい部分についても配慮が必要であると感じたところである。

また、再編時の対象となる生徒たちへの対応についても配慮が必要である。本市の新中学校は令和8年4月開校を目指しており、玖珠町で実施していた他中学校生徒との合同授業、合同合宿、合同修学旅行など、再編前後の環境変化に対する生徒たちへの不安を少しでも減らせるような対応を計画的に実施すべきである。



玖珠町議会
大野元秀議長あいさつ



玖珠町教育委員会の説明を受ける
文教厚生委員会の委員



会場の玖珠町役場庁舎前

【大分県中津市】

■日 時 令和4年10月18日（火） 8:53～10:23（当局による説明・質疑応答）
10:30～11:10（現地視察）

■調査目的

【1】中学校のブレザー型標準服（制服）導入について

中津市では、現在の市立中学校の標準服の仕様について、気温の上昇、時代の移り変わり、生徒や保護者の価値観の多様化などを背景として、標準服の見直しを求める声が高まってきている。そこで検討委員会を設置し、児童・生徒及び保護者の声を聞き、機能性、多様性、経済性へ配慮した新標準服を令和5年度に導入予定である。

本市においては、銀鏡中学校を除く市内5つの中学校を再編し、令和8年4月に新中学校として開校することを目指している。制服についても、西都市新中学校設立推進委員会の総務部会において、今後検討していくこととなっている。

今後の本市における新中学校の制服において参考になるものであるため、本委員会として調査を行った。

【2】なかつ・こどもいきいきプレイルームについて

令和元年にある民間会社が行った、「子育て世帯にうれしい制度ランキング」調査によると、「屋内大型遊具がある施設の整備」が1位に輝いている。

中津市では、民間商業施設内（サンリブ中津3階）に『なかつ・こどもいきいきプレイルーム』を平成29年12月よりオープンし、親子が、安心して、ゆっくり過ごせる駅前の屋内遊び場として、平成31年4月には利用者が10万人を突破するなど多くの方が利用している。

本市では、第5次西都市総合計画において、政策目標3「ささえる・西都～健やかで温かな地域づくり」基本施策3-1「子ども・子育て支援の充実」を掲げている。

本市における子育て支援事業の充実において参考になるものであるため、本委員会として調査を行った。

■調査事項

【1】中学校のブレザー型標準服（制服）導入について

- (1) 導入に至る経緯、目的について
- (2) 導入に当たって児童生徒・保護者等への説明会(アンケート)等の取り組みと反応について
- (3) 導入に当たっての保護者への補助等の有無について
- (4) 文部科学省は、自認する性別の制服・衣服や体操着の着用を認める事例を掲載した「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を通知しているが、これらの通知を受けた教育委員会としての対応について

【2】なかつ・こどもいきいきプレイルームについて

- (1) 「一歩進んだ子育て環境のまち」「出生率2.0のまち」とうたっているが、このような屋内型のプレイルームを導入する決断に至った理由
- (2) 平成29年12月に開設され約4年が経過しているが、住民の反応等について
- (3) 年間利用者数について（天候別等あれば）
- (4) 整備・維持管理費用、運営体制について
- (5) コロナ禍による影響と運営等の課題について

■概 要

1. 市の概要

中津市は、大分県の西北端に位置し、東は宇佐市、南西は玖珠郡・日田市、北西は福岡県に接し、北東は周防灘に面している。

面積は491.44km²で、市域の約80%は山林原野が占め、山国川下流の平野部にまとまった農地が開け、中津地域を中核としている。

北部は狭く南部は西方に大きく張り出した形状を示し、西側に英彦山がそびえ、地域を貫流する山国川の分水嶺となっている。

2. 調査内容

【1】中学校のブレザー型標準服（制服）導入について

(1) 導入に至る経緯、目的について

○検討の必要性を考えるに至った背景

現在の市立中学校の標準服の仕様について、気温の上昇、時代の移り変わり、生徒や保護者の価値観の多様化などを背景として、標準服の見直しを求める声が高まってきており、保護者や生徒、教職員より以下3項目が市教委に上がっていた。

①機能性の向上	・スカートは自転車に乗りづらい ・集会時等の姿勢維持が難しい ・学生服は体温がこもりやすい、息苦しい
②多様性への配慮	・標準服に違和感がある、選択肢の幅を広げてほしい →3つの学校で4人の生徒に制服に違和感あり
③防寒・健康面	・スカートでは冬に寒い、中に着込めない

○導入を検討する意義

機能性や、防寒・健康面の課題もありますが、特に、国際化の進展に伴い様々な社会的、文化的背景を持った方々が増加するとともにLGBTsをはじめとして性のとらえ方が多様化する中、相互に認め合い、人格と個性を尊重し合える社会を目指すことは、今日的な重要な課題となっていると考えます。

なお、標準服の検討に当たっては、経済的な配慮も含め教職員、生徒、保護者等と十分に意見交換を行い、導入の趣旨や具体的な運用方法について共通理解を図ったうえで、導入を進めることが必要であると考えています。

【令和3年5月6日（木）市長説明資料より】

○検討委員会の役割

【中津市立中学校標準服のあり方に関する検討委員会（令和3年5月6日設置）】

機能性の向上や人権的な配慮等の視点を踏まえた新標準制服についての検討を図る。
令和3年12月20日、中津市立中学校標準服のあり方に関する最終報告を行っている。

(2) 導入に当たって児童生徒・保護者等への説明会(アンケート)等の取り組みと反応について

○意識調査アンケート及び結果

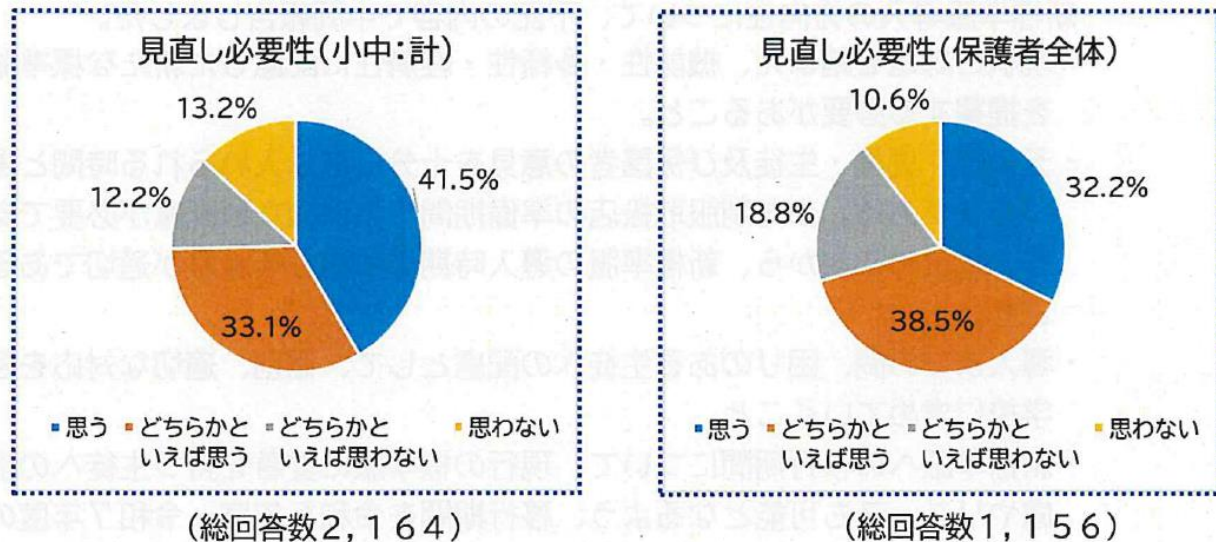
同検討委員会では、はじめに生徒や保護者の意識を把握するため、小6・中1・中2の児童・生徒及び保護者を対象に中学校の標準服に対するアンケートを実施している。

【調査期間】

令和3年5月19日～5月25日

【アンケート結果】

見直しに対して肯定的な回答（思う・どちらかというと思う）が、児童・生徒では74.6%、保護者で70.7%と、どちらも7割を超え、標準服の見直しが必要であるという意識は高いことが明らかになった。



また、保護者に実施した「標準服で重視する項目」（複数回答）では、以下の結果となっている。

1位	洗濯ができる	(93.2%)	5位	伸縮性がある	(56.4%)
2位	価格	(74.8%)	6位	デザイン性	(50.5%)
3位	通気性が良い	(71.4%)	7位	生地・素材	(45.2%)
4位	耐久性がある	(64.2%)	8位	安全性	(23.5%)

(3) 導入に当たっての保護者への補助等の有無について

導入に当たって、中津市としての補助はない。

しかし、「経済的な配慮事項」として、新標準服の仕様として以下の2点を取り入れている。また、「経済的配慮に係るその他の事項」を定めている。

○経済的な配慮事項

①標準服の仕様を市内統一とすることで単価を下げる。

②標準服（上着、ボトム、シャツ）の販売価格は旧学生服と同程度となるようにする。

○経済的な配慮に係るその他の事項

新標準服への移行期間について、現行の標準服に愛着を持つ生徒への配慮やリユースも可能とあるよう、移行期間を令和5年度から令和7年度の3年間とし、新1年生においても新旧標準服が混在する期間とする。令和8年度入学の1年生から全員標準服とし、令和10年度に全学年の生徒が新標準服となるようにすること。

【移行期間の標準服】

	1年生	2年生	3年生
令和5年度	混在可	混在可	混在可
令和6年度	混在可	混在可	混在可
令和7年度	混在可	混在可	混在可
令和8年度	新標準服のみ	混在可	混在可
令和9年度	新標準服のみ	新標準服のみ	混在可
令和10年度	新標準服のみ	新標準服のみ	新標準服のみ

(4) 文部科学省は、自認する性別の制服・衣服や体操着の着用を認める事例を掲載した「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を通知しているが、これらの通知を受けた教育委員会としての対応について

新標準服導入を検討するにあたり、多様性への配慮の視点を重要視し、大分県人権尊重社会づくり審議会委員のおおすみさんじ氏（SOGIE(LGBT)サポートチーム ココカラ！共同代表）を検討委員に選定し、検討する上での様々な意見をいただいたようである。

大住委員をはじめ、意識調査（アンケート）の意見を踏まえ、中津市として標準服の多様性への配慮事項として、以下3点を標準服の仕様にて定めている。

- ①多様な選択ができるように、上着とスラックス・スカート・キュロットの組み合わせができるようにする。
- ②上着・スラックスは各2パターンのデザインとする（Ⅰ型、Ⅱ型）。
- ③上着の前合わせは左右どちらでも可能なボタンホール仕様。

多様性への配慮については、上記①～③を縫製業者に説明し、標準服デザインモデルを制作してもらっている。

令和5年度導入予定
中津市立中学校新標準服

気温の上昇、時代の移り変わり、生徒や保護者の価値観の多様化などを背景として、標準服の見直しを求める声が上がっていました。そこで、検討委員会を設置し、児童・生徒及び保護者の声を聞き、機能性、多様性、経済性へ配慮した新標準服を導入することにしました。

エンブレム
ボタン
ワンポイントマーク

学校別ネクタイリボンカラー

中津市の自然をイメージした市内統一のデザイン

コンセプト
『～快適に自分らしく学校生活を送ることができる標準服～』

※通気性や耐久性に優れ、家庭での洗濯が可能。ボトムスには多様な選択が可能なスラックス・スカート・キュロットを採用。シャツはストretch・ノーアイロン・透け防止に優れた素材に配慮。買い替えの負担を軽減する3年間の成長に対応可能な仕様となっています。

(中津市ホームページより)

【2】 なかつ・こどもいきいきプレイルームについて

(1) 「一歩進んだ子育て環境のまち」「出生率2.0のまち」とうたっているが、このような屋内型のプレイルームを導入する決断に至った理由

○プレイルーム設立の端緒と経過について

1	市民へのアンケート結果で「雨の日に遊べる屋内施設」が市内に欲しい子育て施設の1位になる
2	平成27年10月、中津市版第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略に事業明記
3	平成28年8月、内閣府認定地域再生計画「子育て2.0のまちプロジェクト」策定
4	平成29年10月、株式会社マルシヨクと交渉開始
5	平成29年7月、プレイルームの整備開始
6	平成29年12月、プレイルームオープン

平成28年6月のアンケート調査で、「市内で新しくできればよいと思う施設」の問いに、「雨の日に遊べる屋内施設」への回答が全体の41.5%を占め、第1位であった。市長とのふれあい座談会やなかつ・ふれあい子どもランド等でも同様の意見が数多く、市民ニーズが高いと判断している。

そこで、このニーズに応えるため「子育て2.0のまちプロジェクト」（H28.8_内閣府認定）として掲げ、新しい官民連携（民設公営）方式により屋内遊び場を設置することで子育て環境の充実を図っている。



☆エリアが分かれており、小さいお子さんでも安心して利用できる。また、駅近郊の特性を生かし、「電車の見える屋内広場」として、電車好きに大喜びのスポットもある。

(2) 平成29年12月に開設され約4年が経過しているが、住民の反応等について

利用されている方や近辺から引っ越してきた方からは、「こういう施設があって助かる、うれしい」などの意見をいただいている。

また、雨の日に遊べる屋内施設とあるが、近年は猛暑日の増加に伴い、雨の日に限らず暑い日にも利用いただける場所として好評いただいている。

(3) 年間利用者数について（天候別等あれば）

○これまでの利用者推移（延べ人数）

平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
13,341人	70,266人	52,943人	10,424人	18,326人

※平成31年4月には利用者が10万人を突破

※令和2年以降はコロナ禍による施設閉館等の影響あり

(4) 整備・維持管理費用、運営体制について

○施設整備について

総事業費	63,700千円
財源	地方創生推進交付金 (1/2) 地域振興基金 (1/2)
備考	サンリブへの施設整備補助金として

※一般財源なし

○運営費について

令和3年度決算	15,016千円
財源	子ども・子育て支援交付金 (2/3)
備考	うち人件費約6,000千円、 光熱費約6,500千円

○運営体制について

職員配置	会計年度職員約10人
備考	うち2人は資格有子育て支援員

(5) コロナ禍による影響と運営等の課題について

○コロナ禍における運営の課題・対策

- ・ 12時30分から13時までの30分間を消毒のため一時閉館
- ・ 消毒作業の必要性から、小さいおもちゃ等を撤去
- ・ 20組（1組4名まで）を目安に入場制限を実施（現在は終了）
- ・ スマホから行う予約システムを導入（入場制限時は予約優先とした）

コロナ禍により多世代交流やイベントの開催に苦慮している。

■まとめ

【1】中学校のブレザー型標準服（制服）導入について

新標準服導入に当たっては、機能性や防寒・健康面だけでなく、特に、国際化の進展に伴い様々な社会的、文化的背景を持った方々が増加するとともにLGBTsをはじめとして性のとらえ方が多様化する中、相互に認め合い、人格と個性を尊重し合える社会を目指すことを重要な課題としてとらえ、経済的な配慮も含め教職員、生徒、保護者等と十分に意見交換を行い、導入の趣旨や具体的な運用方法について共通理解を図ったうえで、導入を進めてきている。「中津市立中学校標準服のあり方に関する検討委員会」からの最終報告もなされており、令和5年度導入に向けて、中津市役所1階ロビーに展示されるなど広く市民に公開されていた。

本市においては、中学校再編に伴い、新制服についても今後検討していくこととなっているが、中津市同様、性別にとらわれない制服選択ができること、経済的な配慮の重要性を感じたところである。

【2】なかつ・こどもいきいきプレイルームについて

中津市では、駅や商店街から徒歩1分という立地のよい民間商業施設の一部フロアを無償により屋内広場「こどもいきいきプレイルーム」としてオープンしている。

「子育て2.0のまちプロジェクト」を掲げるなど、「雨の日に遊べる屋内施設が新しく

できればよい」という市民のニーズを積極的に応え、子育て環境の充実に力を入れていた。雨の日だけでなく、異常気象による猛暑などの日にも好評とのことであり、天候に左右されず安心して遊ぶことのできる施設の重要性を再認識したところである。

また近年では、大型ショッピングモールなどの進出により、中津駅周辺の商店街利用者も減少していたようだが、平成29年12月オープン以来、平成31年4月には利用者が10万人を突破するなど多くの方が利用し、商店街の活性化にも寄与していた。

本市でも商店街の活性化などの課題は山積しており、他部署連携した市全体での協議・検討を行うことも必要であると感じたところである。



中津市議会
小住利子厚生環境委員長あいさつ



研修の様子



中津市役所 1 階フロアに展示して
いる制服を視察する様子

【大分県豊後大野市】

■日 時 令和4年10月18日（火） 14:24～15:35

■調査目的 性別などによらず着用できる中学校の制服選択制導入について

豊後大野市では、学校教育基本方針に「地域とともにあるヘプタゴン教育」を掲げており、その中で「小中一貫教育の推進」に取り組んでいる。「誰も取り残さない」という基本理念のもと、子どもの人権の問題やジェンダー問題によって困っている児童生徒を置き去りにしないという立場から、制服や校則の問題解決に向け見直しを行い、「制服選択制」を取り入れている。これは自分らしく主体的に生きる子どもを支援するため、男女の制服の枠を撤廃し、すべての子どもが、その学校の指定であるすべての制服を選択できる制度で、令和3年度より各中学校の校則変更により実施している。

本市においては、銀鏡中学校を除く市内5つの中学校を再編し、令和8年4月に新中学校として開校することを目指している。制服についても、西都市新中学校設立推進委員会の総務部会において、今後検討していくこととなっている。

今後の本市における新中学校の制服において参考になるものであるため、本委員会として調査を行った。

■調査事項

- (1) 導入に至る経緯について
- (2) 取り組みについて
- (3) 今後の課題について

■概 要

1. 市の概要

豊後大野市は、平成17年3月31日に三重町、清川村、緒方町、朝地町、大野町、千歳村、犬飼町の5町2村が合併して誕生した。大分県の南西部、大野川の中・上流域に位置し、東西約22km、南北約31km、総面積は603.14km²であり、県土の9.5%を占めている。

東部は大峠山、佩楯山、西部は阿蘇外輪山のすそ野、北部は神角寺・鎧ヶ岳、南は祖母・傾山、三国峠により囲まれ、盆地状をなしている。地形的、地理的には必ずしも恵まれてはいないが、起伏に富み、かつ複雑な地形を活かすとともに、大小の河川を集めて別府湾に注ぐ大野川の豊かな水利があり、県内屈指の畑作地帯を形成している。また、神角寺・芹川県立自然公園、祖母・傾県立自然公園、祖母・傾国定公園によって囲まれており、有形、無形の地域資源に恵まれた名水・田園・観光のふるさとでもある。

気候は南海型気候に属し、平地気候と山地気候のほぼ中間にあり、四季を通じておおむね温暖で、一部の山岳地帯を除いては、平坦地の平均気温は15～16℃と極めて農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきた。

2. 調査内容

(1) 導入に至る経緯について

豊後大野市教育委員会では、制服を自由に選択ができる環境づくりに取り組んでいる（制服選択制）。

その背景には、近年、性的マイノリティーの社会的関心が高まっていることが挙げられる。

しかし、その理解は十分とは言えない状況にあり、2020年度市内中学校の制服に関する校則（きまり）では、男女の区別が明確にされている実態があった。

この実態を受け、「性の多様性」「生活上の機能性」「学校の歴史」の3点の視点から、校則全体の見直しと制服の検討を行っている。

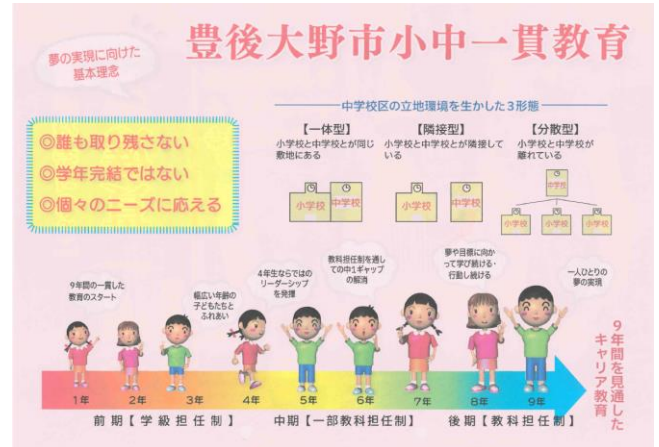
(2) 取り組みについて

○制服見直しの背景（令和2年度から）

- ・子どもの人権から見直すことから始める。
→「校則」の見直し
- ・小中一貫教育校の設置を目指している。
→9年間のスパンの中で制服の見直し

○校則の見直し（令和2年度から）

- ・各学校へ検討を依頼
- ・生徒指導との関わり
→「生徒指導提要」（文科省）が令和4年に大きく改定



（説明資料より）

○豊後大野市 制服検討委員会の設置（令和3年度～）

目的：制服のあり方について検討

参加者：各学校の代表者、市PTA連合、学校代表

内容：校則について、性的マイノリティー、制服のあり方

○各校での検討（令和3年10月～）

- ・各校での制服検討委員会の立ち上げ
- ・校則の見直し
- ・コミュニティ・スクール（CS）での意見交流
- ・児童生徒の意見
- ・小中一貫教育校として

○学校への対応

- ・「多様な性のあり方等への対応方針」を令和元年に市で定めている。
各校における研修の実施、児童生徒への指導及び支援
- ・校長会議での提案や情報共有
市の方針の確認

(3) 今後の課題について

○成果と課題

- ・制服選択制導入の周知
性別によらない制服選択が進んでいる（学校毎の状況がまちまち）
- ・「校則」の見直し
性の多様性について
- ・制服の見直し・改定
小中一貫教育設置に向けて、今後検討

■まとめ

豊後大野市では、自分らしく主体的に生きる子どもを支援するため、男女の制服の枠を撤廃し、子どもたちによって各中学校の校則を変更することにより、LGBT などの人権意識を高め、地域とともにある「ヘプタゴン教育」に取り組んでいた。

本市においては、中学校再編に伴い、新制服についても今後検討していくこととなっているが、性別にとらわれない制服選択ができることだけではなく、人権の問題や周囲の理解も重要であることを再認識したところである。



豊後大野市議会
田嶋栄一副議長あいさつ



豊後大野市教育委員会の説明を受ける
文教厚生委員会の委員



研修会場の豊後大野市議会議事堂
委員会室